



校長室だより

No.8

つなぐ

平成30年12月1日

校長 阿部修三

求める児童像

- 進んで学ぶ子
- やさしい子
- がんばりぬく子

## 平成最後の年末に思う

師走の声を聞き、年内に仕上げるべきことと残された時間とを比べながら、慌ただしく追い立てられるような時期となりました。

そのせいか新年への期待感や、もうすぐ正月を迎えるという実感は中々沸いてきません。「年を越す」「正月にみんなが一つ歳をとる(数え年)」ことに大きな感慨を覚えていた昔の人に比べ、私たちは季節や年中行事といったものに、わくわくし、しみじみ心を寄せる習慣を失いつつあるようです。

私が子どものころ、いやそれよりもずっと昔の子どもたちはこの時期、正月の到来を、首を長くして待ちました。その気持ちが、唱歌「お正月」にあふれ出ています。この歌の作曲者は「荒城の月」で名高い滝廉太郎です。



当時の人々は、国民こぞって正月を大切にしていたことがうかがわれます。

正月を迎える支度をする大人の姿を見ながら、子どもたちも指を折りつつ、普段とは違う「特別の日」を待ち焦がれていました。

正月の遊びといえば凧あげやコマ回し、まりつきや羽子板(おいはねつき)・・・等。

昔ながらの正月の雰囲気に入り、日本人であることを確認したい気分が湧いて来るものです。

### 「お正月」

もういくつ寝ると お正月  
お正月には 凧(たこ)あげて  
こまをまわして あそびましょう  
はやく来い来い お正月

「もういくつ寝ると」迎える平成31年のお正月。

平成の時代としては最後の正月を、明るく迎えたいものです。

ご家庭でも長年受け継がれて来た風習や流儀を、子どもたちに触れさせていただけたら有難いです。保護者しか経験させられない、おせちや雑煮の味の伝承、大掃除や正月準備の手伝い、一家揃っての初詣、親戚や近所の方への年始のご挨拶など、一つひとつが子どもたちの心に経験として刻まれ、大人になったとき、きっとそれらは次の代に受け継がれると思います。

### 「一月一日」

年の始めの例(ためし)とて  
終りなき世の めでたさを  
松竹立てて 門ごとに  
祝う今日こそ 楽しけれ

### ごあいさつ

津留小学校で、2回目の正月を迎えることができます。この一年間、津留小学校の運営等で多くの津留地区の方々に支えられてきました。道端でも、会合の席でもたくさんの励ましの声をかけていただきました。

453人の元気で明るい子どもたち、愛情いっぱい子どもを育てる保護者の皆さん、いつも学校のこと、子どものことを真剣に考えてくださるPTAの役員さん、学校を愛し、大切にしてくださっている多くの地域の皆様方、どんな時も課題の解決に前向きに、一生懸命に取り組む本校の教職員のおかげで、平成30年を終えることができそうです。感謝の気持ちでいっぱいです。

ちょっと早いですが、今年一年、大変お世話になりました。来年もよろしく願いいたします。

今年の校長室だよりは、これで最後です。皆さん、良い年をお迎え下さい。